観光立国の実現は地方（地域）から

「恋人の聖地」「ふるさとウェディングコンクール」
ブライダル切り口に地方創生に取り組む
ブライダルファッションデザイナー 桂 由美さん
2016年新春特別インタビュー

恋人、夫婦、友人同士でウェディング体験ができる恋人の聖地「幸福駅」（北海道帯広市）

「恋人の聖地」きっかけにすばらしい観光地を知ってもらいたい

日本のブライダルファッション界の草分け的存在であり、世界各国30カ所以上の都市でショーを開催してきたブライダルファッションデザイナーの桂由美さん。非婚化、晩婚化による少子化問題にも積極的に取り組み、「恋人の聖地」を認定する運動や、地域の魅力を活かした市民参加型の結婚式「ふるさとウェディング」を提唱し、地方創生、地域活性化にも力を注いでいる。桂さんの活動に対する思いや、50年間第一線で活躍を続けるパワーの源などについて話をうかがった。聞き手は観光経済新聞社社長・積田朋子。

（東京・乃木坂「ユミカツラインターナショナル」で）

―少子化対策と地域活性化を目指してはじめられた「恋人の聖地」の活動が今年で10周年を迎えます。デザイナーである桂さんがこのような問題に取り組もうと思われたのはなぜですか。

「もともと日本のウェディングは個性がなく祝辞ばかりでつまらないと言われていました。私は日本の結婚式が衣装を含めて世界で一番エレガントで美しいと言われるように、パリ、ニューヨーク、ミラノに匹敵するようなものを東京でも見せたいと思って努力をしてきました。ようやくそうなりつつあったときに起きた問題が非婚化でした。結婚する人のために努力をしてきたのに、非婚化になり、少子化が進みました。少子化はこれから先の国力にも影響してくる。子育て支援などは政府にやってもらわなくてはいけませんが、我々民間として何ができるかと考えました。日本にはすばらしい観光地がいっぱいあるのに若い人たちにあまり知られていない。若者にそういうところでデートやプロポーズをしてもらいたいと思いました。もともとある全国の名所に『恋人の聖地』のプレートを掲げることで、埋もれてしまった観光地を知ってもらうきっかけを作り、新しい切り口で情報を発信することで地域活性化にも繋がると思いました。最初、聖地は20～30カ所しかなかったのですが、今では『聖地』136カ所（うち海外3カ所）、企業・団体が取り組む『恋人の聖地サテライト』は80カ所になりました。それぞれの聖地が競い合い成功例を共有することで地域活性化に取り組んでいます。昨年は成功事例を見える化して共有するために『観光交流大賞』を創設しました」

―恋人の聖地を利用した取り組みはどのようなもの多いですか。

「釣り鐘を作っているところが多いですね。2人で鐘を鳴らすとか、フランス・パリの『ポンデザール（芸術橋）』のように南京錠をかけるとか、『恋人証明書』を発行し、それを見せると地域のレストランが10%割り引いてくれるとか、特別なスイーツを出してくれるなど、地域ぐるみでとても努力されています。特に成功している地域は、地元の大学生と提携しています。大学生のいろんなアイデアを活用することで、産学協同の成果があがってきています。大学生は自分が出したアイデアが採用されると、今度はお客さんを呼んでくれる。大学生や若い人はSNSなどを使うので情報発信力があります」

―恋人の聖地は海外にもあります。

「一番最初はフランスのセント・バレンタイン村にできました。村長さんに恋人の聖地のことを話したら『そんなことは我々のほうが先輩だ』と（笑い）。セントバレンタインデーにはセント・バレンタイン村にヨーロッパ中から恋人たちが集まって来て、愛を温め合っているそうです。日本からも沢山来ますよと言われて一緒にやりましょうと誘われました」

―国際親善ですね。

「そうですね。次はフランスのモンサンミッシェルでした。同じ海に浮かぶ世界遺産ということで広島県の宮島と観光友好都市なんですね。宮島弥山の『消えずの霊火堂』が恋人の聖地になっていて、それを見たモンサンミッシェルの市長さんが、恋人の聖地になりたいと申し出てくれました。あとイタリアのルチアーノと、今年の3月頃には中国にも恋人の聖地ができます。蘇州にブライダルニュータウンがオープンし、そこにすばらしい恋人の聖地が誕生します」

桂さんの店の前から出発する東京版「ふるさとウェディング」

人生の門出を地域の人に祝ってもらう市民参加型結婚式提唱

―地域の魅力を活かした結婚式を応援する「ふるさとウェディングコンクール」という活動もされています。

「コンクールは地域の名所、旧跡、公園を会場として使う、地域に伝わる婚礼風習を活用し、婚礼料理や引き出物に地域の特産品や、伝統工芸品など地域資源を今風にアレンジし、取り入れた結婚式の事例を募集しています。日本の豊かな地域資源と婚礼文化の魅力を再発見し、地域振興も目的にしています。一番大切なのは市民参加型の結婚式であること。東京の場合はマンションからウェディングドレスで出ていっても、誰も見送ってくれないというので、私のお店がちょうど洋風のお城みたいな雰囲気だから、そこからオープンカーで出発します。車体には『Just Married』と書いてあるので、沿道でみんなに『おめでとう』と祝福される。ふるさとウェディングの東京版です。地方は行列してもいいし、人力車や船に乗ってもいいから、街をまわってもらう」

―茨城県の潮来では船で嫁入りするのがとても人気があります。

「地域の特色を活かした演出がいいですね。郷土芸能が余興に入るとか、食事、引き出物、お酒も特産物を活かして欲しい。単に伝統をそのまま存続させるだけではコンクールになりませんから、地域性を踏襲しながらオリジナルなものを生み出していく。昨年で4回目を迎えましたが、町おこしサポート会社など、地域振興に携わる方々からの応募が増えてきています」

外国人が日本で使ったお金の何%かを神社仏閣の修繕に

―我々は「観光立国は地方から」というテーマで新聞を発行しています。恋人の聖地、ふるさとウェディングコンクールはまさしく地方創生、地域の活性化に当てはまります。

「実は私、東京タワーに1度も上ったことがないんです。近所にいるとその良さを見過ごしてしまいがち。世界中の人に日本に来てもらって、日本の良さを知ってもらうことが重要だと思います。外国人が自分の国にない良さを発見する。言われてみて、初めて気付くこともある。『灯台もと暗し』とよくいうけど、近くにあると気付かない」

―訪日客には東京、大阪、京都のゴールデンルートだけではなく地方にどんどん行ってもらいたい。恋人の聖地が地方の魅力を発信する拠点になってもらいたいです。

「仕事の性格上、パリ、ニューヨークによく出かますが、外から日本を見ると、京都がアメリカの雑誌で2連連続世界一の観光都市に選ばれた理由がよくわかります。外に出ると改めて神社仏閣の佇まいなどに魅了される。また日本は島国だからほかにはない独特の自然があります。富士山はいい例です。あと、200年も鎖国をしていたから日本独特の文化が形成されている。今残っているものは絶対壊しちゃいけないですね」

―神社仏閣の修繕にもっとお金をかけて、保存をしないといけません。

「外国人が日本で使ったお金の何%かを神社仏閣の修繕に使うといいですね。わかりやすいお金の使い方ですね」

（2面に続く）

かつら・ゆみ

1964年日本初のブライダルファッションデザイナーとして活動開始。第一人者として業界を牽引し、ウエディングに対する夢を届けることから「ブライダルの伝道師」とも言われる。その功績が認められ93年外務大臣表彰を、96年に中国から新時代婚礼服飾文化賞を授与。99年に東洋人初のイタリアファッション協会正会員となる。10年に全米ブライダルコンサルタント協会から世界に4人のみの称号である「名誉会員」が授与さる。また、非婚化、晩婚化の問題にも力を注ぎ、07年から「恋人の聖地」を認定・育成する運動を開始。続いて「ふるさとウエディング」を呼びかけるなど多岐にわたり活躍中。著書に「世界基準の女になる！」（徳間書店・PHP研究所）、「出会いとチャンスの軌跡」（カナリア書房）など多数。

週刊 観光経済新聞
宿泊・旅行業・運輸・自治体（観光全般）

日本専門新聞協会加盟紙
国土交通省交通運輸記者会所属
発行所
東京都台東区花之雲2－7－17
井門花之雲ビル　〒110-0008
株式会社観光経済新聞社
電話　03(3827)9800(代)
FAX　03(3827)9730
関西支社
大阪市北区天満2－1－20
天満松茂ビル　〒530-0043
電話　06(6354)6166・6290
FAX　06(6354)6292
北海道支局
札幌市中央区北6条西27丁目
1-3-705　〒064-0826
電話　011(624)5030
FAX　011(621)2530
東北支局
山形市緑町4－14－57
〒990-0041
電話　023(687)0702
FAX　023(687)0665
九州支局
福岡市博多区博多駅東2-5-28
博多偕成ビル2F　〒812-0013
電話　092(432)5525
FAX　092(400)9980
購読料年間11,340円(税・送料込)
(税抜10,500円)
振替口座　00140-2-86888番
e-mail info@kankokeizai.com

新年第2号

◎主な内容

☆3面＝田川・JATA会長、二階・ANTA会長対談
☆5面＝針谷・日本旅館協会会長、北原・全旅連会長対談
☆6、7面＝日本国内OTA3社鼎談
☆14～16面＝旅館女将座談会
☆21～25面＝業界発展に寄与する企業のプロフィール